

平成27年3月 南魚沼市議会定例会  
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質問者
1	15	中 沢 一 博
2	11	鈴 木 一
3	14	黒 滝 松 男
4	17	中 沢 俊 一
5	10	林 茂 男
6	1	永 井 拓 三
7	4	清 塚 武 敏
8	9	笛 木 晶
9	18	岡 村 雅 夫
10	20	腰 越 晃
11	7	桑 原 圭 美
12	13	小 澤 実
13	2	塩 川 裕 紀
14	6	佐 藤 剛
15	3	田 村 眞 一
16	23	阿 部 久 夫
17	12	塩 谷 寿 雄
18	26	若 井 達 男
19	5	勝 又 貞 夫
20	8	山 田 勝
21	19	今 井 久 美
22	25	樋 口 和 人
23	16	寺 口 友 彦
計		23名

**【質問方式】**（いずれも質問制限時間（答弁時間を含まない。）は 30 分）

**一括質問一括答弁方式：** 全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。  
（初回は登壇して行い、質問回数は 3 回まで。）

**一問一答方式：** 質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

**複合型一問一答方式：** 一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。





質問 順位	質問 内 容
3	<b>高齢者及び要援護世帯住宅除雪援助事業の拡充について</b>
議席	
14	
黒 滝 松 男  (一問一答方式)	<p>           昨年12月初旬から大雪に見舞われ、市民は大変苦勞した。今冬は豪雪対策本部設置には至らなかったが、重い雪質の影響もあり、多くの被害が発生した。人的被害が17人、このうち2人の方が不幸にも亡くなった。         </p> <p>           今後も暖冬・大雪傾向が予想される中、高齢者及び要援護世帯住宅除雪援助事業の拡充を図るべきでは。         </p> <p>(1) 助成上限24時間の拡大について</p> <p>(2) 民生委員・児童委員の見回り強化について</p>

質問 順位	質問 内 容
4	<p align="center">「プラチナタウン」事業推進は長期戦略を持って</p>
議席	
17	
中 沢 俊 一  (一問一答方式)	<p>南魚沼市が全国に先駆け取り組む「プラチナタウン構想（日本版CCRC）」は、2月18日に3回目の市民共同勉強会を終えて、手続き上の序章を順調に乗り越えたように見える。しかしながらこの事業の本来の目的、南魚沼市内外の産業を活性化し地方での若者の定着を促すための「事業」としての骨格づくりは、正にこれからが正念場だ。</p> <p>以下2項目につき、市長の所見を伺う。</p> <p>(1) 事業としての「行程（戦略論から見た展開）」の妥当性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①産業活性化に見合った移住人口受入数の試算</li> <li>②南魚沼市の持つ経営資源（用地・人材確保・医療体制・観光・文化）の点検・評価及び強化</li> <li>③国策（地方創生）へのアピールと連携強化</li> <li>④事業主体の選定</li> </ul> <p>(2) 国際大学修了生ほか、人的資源の本格的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「I C L O V E」構想の抜本の見直し＝「第二の開国」拠点に名乗りを上げよ。</li> <li>②市外企業、人脈の大胆な導入</li> <li>③初等・中等教育現場での積極的な戦略発信</li> </ul>



質問 順位	質問 内 容
6	<b>雪国らしい教育手法の確立</b>
議席	
1	
永 井 拓 三  (一問一答方式)	<p>世界を見ても、南魚沼市ほど雪が降る6万人都市は他にないだろう。その雪を使った独自の教育方針を確立することは、これから地方創生を視野に入れたときに大きな武器となることは間違いない。その雪からは、多くのことを学ぶことが出来る。雪の成り立ちからは気象学や地学が、雪結晶の観察からは科学が。斜面にある雪からは物理学、雪を文化として捉えれば文学としての側面も持っている。また雪国になぜ人が住むかを考えれば文化人類学となり、雪がもたらす様々な害を知れば社会科学や防災学、大きなくくりでは環境学へと進化する。この大きな教育素材を義務教育中から有効に活用し、表面だけではない深度のある教育を行うことが可能なはずである。表面をさらうだけの教育など、まるで意味がない。教育とは、社会全体で人を育てるという活動である。つまり、雪という教材は学校教育だけではなく、市民の生涯学習素材として活用するべきものである。</p> <p>第二の中谷宇吉郎や、ウィルソン・ベントレーのような優秀な人材を南魚沼市から輩出するために、今一度、地域独自の教育素材を見つめ直す必要がある。</p> <p>鉄道総合技術研究所の雪害防止実験所が南魚沼市にあることには、当然のことながら理由がある。なぜならここが雪国で、雪の研究に最適地だからである。すなわち、雪を学ぶにも最適であることの裏付けといっても過言ではない。</p> <p>これらのことを踏まえて、雪の教材化に対する市長の考えを伺う。</p>

質問 順位	質問 内 容
7	<p><b>1 雪対策の充実、克雪にどう取り組んで行くか</b></p>
議席	
4	
清 塚 武 敏	<p>今、地方創生の観点からも「雪」は、私たち市民だけでなく、これからこの地に定住をしようとする人々にとっても大きな課題と考える。近年、少子高齢化や核家族化といった社会構造の変化により、屋根雪や敷地内の除雪（落下した雪）の処理、さらにはコミュニティが担ってきた集落のセンターなどの共有施設の除雪が困難になるなど、地域の克雪力の低下が顕著になっていると感じる。</p> <p>また市長は施政方針で、課題と感じていた豪雪時の早めの対応や要援護世帯への援助基準も見直すとしている。この雪国で人々が安全かつ安心して生活を営み続けられる、時代に合った克雪にどう取り組んで行くのか、伺う。</p> <p>(1) 地方創生の観点から、南魚沼市の克雪・利雪・親雪計画を策定する必要があるのではないか。</p> <p>(2) 要援護世帯等への援助の見直しは。</p> <p>(3) 地域の実情に即した行政の支援は。</p>
(一 問 一 答 方 式)	<p><b>2 医療再編の期待と課題について</b></p> <p>医療再編スタートまであと3か月となった。「うおぬま通信」第1回が市民に配布され、公立病院再編の工程が示された。今後2回、3回の通信で、どう受診するのか、受診のための具体的な手引きが示されていくが、市民目線で見るとき、期待と課題もまだあるのではないか。</p> <p>(1) 6月1日から10月末までの5か月の間、基幹病院とゆきぐに大和病院が現状維持で同じ場所でスタートするが、駐車場の確保及び区分けはどうするのか。</p> <p>(2) ゆきぐに大和病院では3月1日から電子カルテも導入された。医療再編後、待ち時間の短縮等、サービス面がどう向上するのか。</p>

質問 順位	質問内容
8	1 気象観測体制の整備について
議席	近年、地球規模で異常気象が起きている。当市でも平成 18 年豪雪、平成 23 年新潟・福島豪雨があった。水害、雪害を未然に防ぐためにも、市独自で気象観測体制を整備する必要があると考えるが、市長の所見を伺う。
9	また、市ではどのような気象観測体制になっているのか伺う。
笛	2 人口減少対策について
木	全国アンケートでは、人口減少により「消滅しかねない」と危機感を持っている自治体は 77%にのぼり、県内 30 自治体では 80%に達している。
晶	当市の人口減少対策について、市長の所見を伺う。
(一括質問一括答弁方式)	また、人口減少対策を担う新たな部署を設け「地方創生」の初年度をスタートさせるべきと考えるが、市長の所見を伺う。

質問 順位	質問 内 容
9	<b>安倍政権の荒波から市民生活をどう守る</b>
議席	
18	
岡 村 雅 夫  (一問一答方式)	<p>消費税が8%に増税されて11か月。アベノミクスでの円安・株高の経済施策は、ますます格差拡大を増幅させている。雇用の面では、非正規雇用の増大で長期の賃金停滞・下落をもたらしている。さらに、労働者派遣法改悪案と「残業代ゼロ法案」を今国会に提出しようとしている。医療・介護の分野では、「医療・介護総合法」と、社会保障予算の「聖域なき見直し」によって危機に直面させられている。</p> <p>戦後、これほど生活の不安と展望の持てない時代はなかったのではないか。今こそ、国の悪政から市民を守る防波堤となる施策の展開が必要と考えるが、所見を伺う。</p> <p>(1) 安倍政権の評価と展望を伺う。 アベノミクス、消費税の10%増税、TPP、原発再稼働、集団的自衛権行使容認など、どれも世論調査で国民の5割から6割が反対している。TPP押し付けと一体の農協「改革」で「地方消滅」に陥ると思わないか。</p> <p>(2) 医療・介護で予想される問題点を伺う。 消費税は福祉のためと言いながら、社会保障の削減が進められている。あるケアマネージャーが言うには「療養病床の閉鎖で行き場がない。とにかく入れる施設が必要」とのことだ。介護報酬引き下げで、特養は更に苦境に追い込まれる。採算が合わなければ事業者は撤退する。民間任せでは完結できない事態だ。不足する療養病床と老人保健施設の整備を検討するときと考えるが、所見を伺う。</p> <p>(3) プラチナタウンで「地方創生」はなるか。 市民が安心して住み続けられる社会の構築が前段になればならない。</p>

質問 順位	質問 内 容
10	<p><b>1 子育て支援・教育について</b> 市が主管し実施している子育てと教育分野の各種事業について、総合的に評価した上で、来年度の重点課題とは何か。</p>
議席	
20	<p><b>2 環境共生について</b> 分別回収を細かく徹底し、資源としてのリサイクルの事業化を更に進める考えは。</p>
腰 越 晃  (一括質問一括答弁方式)	<p><b>3 都市基盤について</b> 「市民の安心・安全の確保」を考える上で、以下の3項目について伺う。 (1) 土砂災害危険箇所への対応をいかに進めるのか伺う。 (2) 六日町中心市街地の狭隘な道路状況は、生活の利便性や緊急時の対応に極めて脆弱である。六日町地域全体的な都市計画構想が必要ではないか。 (3) 空き家対策について 市が仲介し、優良物件の売買に取り組んではどうか。</p> <p><b>4 産業振興について</b> (1) 農業振興と人口維持について 基幹産業を農業とし、人口を維持し都市力を維持していく上で、兼業農家の存在意義は大きいと思う。今後の農業施策の上で兼業農家のあるべき姿を如何に考えているのか伺う。 (2) 起業支援について 新たな起業や創業への資金支援を行うことについて、評価したいと思う。以下伺う。 ①支援分野・業種等について ②インターネットの活用 ③コンサルティング支援</p> <p><b>5 行財政運営について</b> 「医療再編の推進と子育て支援の充実」「教育施設の整備と統合中学の建設の促進」「環境施設更新計画の推進と鳥獣共生対策」「交通体系の整備と道路・橋梁施設の維持管理」「農業及び商工業の振興と雇用の推進」「防災体制の強化と人口対策」の重点施策が挙げられている。当面、こうした主にハードウェア分野に集中的に資源を配分していくという考えか。また、スクラップとなる施策事業については、如何に考えているのか。</p>





質問 順位	質問 内 容
13	<p style="text-align: center;"><b>今後の婚活サポートについて</b></p> <p>平成 25 年 12 月定例会の一般質問でも、市長の考えを伺った。平成 26 年度には「パン婚」が開催され、今回も六日町商工会青年部の方々に協力してもらった。今後、市としても周知の徹底や成 立カップルの追跡調査も含めたサポート等を行うべきと考える が、再度市長の考えを伺う。</p>
議席	
2	
<p style="text-align: center;">塩 川 裕 紀</p> <p style="text-align: center;">（一括質問一括答弁方式）</p>	



質問 順位	質問 内 容
15	<p><b>1 雪害対策の拡充を</b></p>
議席	
3	
田 村 眞 一  (複合型 一問一答方式)	<p>今冬は、12月中旬から降雪が続き、市内各地で重い雪による家屋の倒壊被害がおこった。異常雪害の中で「住宅除雪援助事業利用認定を受けたが、除雪作業時間枠（24時間まで）を使いきり、1月は実費で高額の作業料金を支払うことになった」「融雪屋根の燃料費に1か月で30万円もかかった」「家の周りの排雪に重機代金が1回8万円かかった」など市民から「負担が重い、なんとかならないか」との切実な声が寄せられた。高齢化が進行する中で、自力による除雪が困難な人も年々増え、人材の確保も課題となっている。市民が希望を持ち安心して暮らしていけるよう、雪害対策の拡充を進めるべきだ。以下の6点について市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 「豪雪はそれ自体が災害」という基本姿勢について  (2) 除排雪の実態をつかみ、安心と希望が持てる制度拡充をめざすべきだ。  (3) 障がい者が冬場でも安心して日常生活がおくれる対策について  (4) 家屋除雪を担う作業員確保の対策について  (5) 隣接する家、道路沿いへ倒壊の危険がある空き家の安全対策について  (6) 雪害に関わる諸制度の周知について</p>
	<p><b>2 冬場の公共交通網対策について</b></p> <p>以下の4点について市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 消雪パイプ路線の総点検と不備箇所への除排雪対応について  (2) 市民バス運行路線及び回転場の除雪対策について  (3) 国道17号線排雪作業による渋滞解消対策について  (4) JR上越線の除雪の現状と問題点、対策について</p>





質問 順位	質問内容
18	<p>城内・大巻・五十沢三中学校統合の理念は如何に</p>
議席	
26	<p>平成30年4月1日開校を目指して準備が進められている。校名も「南魚沼市立八海中学校」と決定している。校歌、校章、制服も今後決定される。</p>
<p>若 井 達 男</p> <p>(一括質問一括答弁方式)</p>	<p>(1) 「八海中学校」の教育目標・校訓も制定しなければならない。その基は「理念」である。如何に。</p> <p>(2) 三中学校統合後の計画は。</p>

質問 順位	質問内容
19	<p>1 市民サービスの拡充について</p>
議席	
5	<p>民間では、スーパーもコンビニも土日営業は当たり前のこと。行政においても、近年、土日の窓口対応をする自治体が増える傾向にあると聞く。市民サービスを極めようと考えれば、土日対応は当然のことと思うが、市はどのように考えているのか。この点について、周辺市町村の新しい動きはないのか。</p>
勝 又 貞 夫  (一問一答方式)	<p>2 えきまえ図書館 本の杜について</p> <p>優れた図書館にするためには、どのような注意、努力が必要と思うか、今後の考え方を問う。</p>
	<p>(1) 2月に行われた蔵書点検で分かったことは何か。</p>
	<p>(2) 選書について、今後の考え方はどうか。選書は適正に行われているのか。</p>
	<p>(3) 休館日について 年中無休にできないか。</p>
	<p>(4) 市民からの投書について、その対応は十分か。</p>
	<p>(5) 旧図書館（市民会館2階）の空きスペースの利用について</p>
<p>(6) 本の廃棄の仕方について</p>	



質問 順位	質問内容
21	<p style="text-align: center;"><b>水素エネルギーを消雪、地盤沈下対策、地方創生に活用すべき</b></p>
議席	
19	
<p style="text-align: center;">今 井 久 美  (一問一答方式)</p>	<p>激しい技術革新により「水素社会」がより実現性を帯びてきた。今国会の安倍首相施政方針演説でも「エネルギー市場改革」として水素ステーション整備、燃料電池車の普及を加速させると言っている。</p> <p>2020年東京オリンピックの選手村は水素タウンとして、企業、行政が水素技術を世界に示す好機として捉え、計画が進んでいる。県内では長岡技術科学大学でも水素に関連する技術開発が進んでおり、新潟市内の金属加工企業が、新工場を造成して水素ステーション向け熱交換器の増産体制に入るとの報道があった。土壌が熟成しつつある。</p> <p>そんな中、今冬の雪には多くの市民がほとんど参ったのではないか。井戸規制がかかる中、中心部の住民はやりきれない思いだったのではないか。地下熱、水道水利用など実証実験のノウハウも蓄積した。そこに水素エネルギーを加えて消雪、地盤沈下対策を考えられないか伺う。</p> <p>(1) ここ数年の地盤沈下の状況は。</p> <p>(2) 井戸規制をかけている中心部をどうしていくのか。</p> <p>(3) 地下熱利用、水道水利用実験の検証は。</p> <p>(4) 熱源として水素エネルギーを活用する市内企業のプロジェクトチームを立ち上げ、消雪・地盤沈下対策に活路を見出し、防災、経済、雇用の面からも、産・官・学一緒になって「地方創生計画」に盛り込み、この南魚沼市を災害に強い「水素の街」として産業を呼び込むことを掲げるべきと思うが、見解は。</p>



質問 順位	質問内容
23	1 都市基盤整備について
議席	プラチナタウン構想を中心市街地再開発の都市計画見直しに活
16	かせ。
寺	2 教育・文化について
口	市内小中学生と長岡技術科学大学との連携について伺う。
友	3 産業振興について
彦	農業用水確保のための清津川の水利権について考えを伺う。
	4 保健・医療・福祉について
	生活困窮者自立支援事業の内容について伺う。
(一問一答方式)	